

な敷地内にある。瀟洒な白亜の殿堂の美術館内に、幹事さんの案内で入館する。今日は丁度フランスのジャガール版画展を開催中で、(1)サーカスよりテーマ、(2)以心伝心より、を画題として晩年の色彩豊かな四つの挿画本と連作版画が選ばれて、彩られた魂の調べが奏でられており、ギャラーでの富士山を愛したアーティスト達の富士山の美しい絵画や写真と相俟って、皆さんの佳き眼の保養になった事でしょう。

十四時に出発して河口湖ハーブ館に十四時十分着、雄大な富士山麓で育くまれた百種類にも及ぶハーブが栽培されているハーブ館に入館する。温室では富士のニオイザクラ、ローズマリー等、ガーデンではイングリッシュシユラベンダー、イタリアンパセリ、ヒソップ、セージ、チャイブ、コリアンミント、ヤローホワイト……等があり皆さんゆつくりと、香りが漂う構内を巡覧され今度は鼻の佳

き保養をされた事でしょう。

十四時四十九分、本日の楽しかった有意義なスケジュールを熟し東京へ向かって帰路に就く。バスは河口湖I・Cを十四時五十分に通過して中央自動車道に入り快調に走り、今日のスターであった富士山も後方へ消え去り一抹の淋しさが感じられる。十五時十七分バスは大月I・Cを通過して本線に入り渋滞もなく順調に入り、やがて新宿近くになり、至れり尽くせりの幹事さんより、お土産として結構な鯉の丸煮の缶詰を頂き、又『来年の新年例会、春季例会に元気で再会しましょう』とのお別れのご挨拶があり、十六時三十分にはバスは無事新宿に到着しました。今日一日久ぶりに自然につつまれて土のニホイにふれることができました。皆さん何から何までお世話してくださった幹事さんに感謝の気持ち一杯で名残を惜しみつつ、元気で再会を約し家路につかれました。(S・I記)

### 辰巳会 秋の旅

加藤 武城

天高く裏富士長く裾を曳く  
秋晴の甲斐の山脈空の紺  
冬霞赤城榛名のむらさきに  
箱根路の早薄紅葉し初めけり  
相模湖の光れる空を鳥渡る  
賊も出ず小仏峠秋の風  
八海の稲を架くるも景色かな  
浮雲を神投げたまふ秋の空  
一片の雲もまとはぬ秋の富士  
河口湖真二つに割る秋の橋  
画展見て虫柱立つ外に出づる  
雉鍋を共につつきて旧き友

### 辰巳会東京支部

秋の例会参加者

平成四年十月二十七日(火)	富士山麓忍野八海	山中湖
安東 浄田 辺	満寿子	敬称略
今村 三郎 建部 清也		
植田 三男 西川 明子		
請川 耿 同 伴		
加藤 福雄 安東 恒子		
加藤 福雄 安東 恒子		
十四名		

### 平成五年 喜寿 & 米寿 対象者紹介

喜寿対象者(大正六年生)  
西村正己 横田周作

米寿対象者(明治三十九年生)  
福沢有一 小松豊秀

曾根好雄

### 秋の叙勲受賞者

(栄ある叙勲受賞心からお祝い申し上げます)  
森 泰助(勲三等旭日中綬章)

(株)神戸製鋼所相談役

### 原稿募集

内容 随想 短歌 俳句 詩  
写真 鈴木往時の思い出  
近況などを  
必ず原稿用紙に縦書で  
四百字詰五枚程度  
締切 平成五年五月末日  
送先 神戸市中央区磯辺通  
一丁目一ノ三九  
太陽鋳工株式会社内  
「たつみ」編集部宛

## 栄町三丁目頃の鈴木商店時代の思出

### 小原 多喜子

私が鈴木商店に入らせて戴いた時は昭和五年二月末でした。当時お店は整理中の事とて表の看板は東神土地興業株式会社と鈴木合名株式会社の看板がかかっていたと思います。其後太陽曹達株式会社の見板がかかっていた様に思います。建物には昔正金銀行だったそうです。表はモルタル塗になっていたのですが全部煉瓦作りだったように思います。金庫室など石造りで頑丈な鉄扉がついていました。書類等重要なものは全部そこに納めていました。建物の隣りは三十八銀行と船主会があり電車道をはさんで横浜正金銀行と山下汽船等立派な建物がありました。事務所の二階は山田商店に貸していました。下を鈴木が使っていました。社員さんは竹内章治様、田中真一様、三木房次様、松岡俊一様、松本健三様、賀集益蔵様、竹内武義様、竹岡篤三様、岡清一様、倉谷正義様、前川力太郎様、吉松威稜様、

松本三平様、安東直市様他にタイピストの古出よね様、信書の池田夏子さんに電話交換手の真継よねさん、後藤ゆきさんとお使いをされる服部丈太郎さん、お留守番の岡亀次郎さん御夫妻と藤縄梅野さんと楠光子さん、この二人は私といれちがいに日沙商會と外人商社へ移られました。当時東京神戸間の手紙のやりとりは箱便といまして列車のボーイに厳重に作られた鍵のかかった箱を服部さんが夕方方の列車に間に合うように持って行って渡しておりました。

重役室には御主人岩治郎様、若御主人の岩蔵兼用の机と金子様支配人の大塚清次さん、平高寅太郎様、谷作之助様の机がならび真中には会議用の大きなテーブルがありました。

私達をよばれる時はテーブルの上にある鐘をチンチンとたかれるのですぐとんでいっておりました。重役室にはいつも大塚様、平高様、

谷様がおられ御主人や若御主人はあまりお見えになりませんでした。お越しになると御主人は浜口雄幸さんに似た威厳のあるお顔で一寸恐ろしかったですが笑われた時はすごく剛快な笑い声で事務所までこえる位でした。若御主人はとてもやさしくして私などいろいろと細かい事を教えていただきました。お家様も時々買物の序でに立寄られていましたがよく御察人様や若御察人様がお供について来ておられました。小原流の国風会花展が元町三丁目の播新さんである時などお見えのようでした。

金子様は安東様をお供で東京、神戸間を往復しておられました。大体東京を土曜日の夜たれ日曜日に神戸へ来られていましたが時には伊豆の長岡温泉によって月曜に帰ってこられる事もありました。金子様が神戸へ帰って来られますとお客様がいっぱい来られますので大変でした。私など日曜日など全然休めない事が多かったのです。お客様のなかでも今でも一番印象にのこっているのは川崎造船所の社長の松方幸次郎様です。いつも

来られるとニコニコ笑顔でいい香りのする葉巻をくわえられて大将いるかえといつて重役室にはいつてゆかれてました。他にも永井幸太郎様や神戸製鋼所の田宮嘉右衛門様や沢山のお偉い方々がお見えでした。金子様も大変だった事と思います。重役会の時など夜中の二時頃まで行われた事もありました。幾年かたって事務所も山田商店が移って行きましたので鈴木薄荷が明海ビルから移って今までの鈴木商店の事務所にはいられて私達は全部二階に移り重役室も二階山側になりました。社員さんも松岡さんには早くに小樽の大成商事に移っておられました。竹内章治様は東京の日沙商會賀集様は三菱レーヨンに移られ他の人達もやめられたり亡くなられたりしました。いれかわりに橋本隆正様が来られました。竹岡様や竹内武義、越智望様等は東神土地のお部屋に居られました。私の他に松下重男さんや戦死された友久音一さんも居られました。池光よし子さん、電話の方も次々かわられまして、吉永義

子さん「現在松下さん」。他に吉田さんもおられました。

忘れましたが昭和九年頃でしたか室戸台風の時、丁度金子様、安東様が東京から神戸へ帰られる時瀬田川の鉄橋の上で台風に遭遇され列車が上り線の方に転後しました。会社では一同大騒ぎになり東京へ電話をしたり大阪支店に電話をいれたりとても大変な事でしたがその最中に金子が頭に包帯をさられ安東さんも指から血を流しながら靴を片方ぶらさげられタクシード帰って来られました。一同無事を喜びました。すぐ花隈の隈病院に入院されました。後日天皇陛下からお見舞いの御下賜金が届いていました。お金は知りませんが包紙にか、っていた青い玉虫色の水引の色がいまでも目に浮かびます。金子様が無事にお帰りになった事は本当に嬉しい事でした。

他に嬉しかった事は会社の人達全員で四国の金比羅さんにお詣りに行って淡路島や鳴門の観潮などした事です。又秋には全員で唐戸へ松茸狩にいった事など思出しません。私は昭和十三年三月会社をや

めましたが、五月お家様がお亡くなりになりましたので会社より

応援をたのまれ来客のお茶のお接待の電話の交換のお手伝いをしました。又鈴木家の御本家からは社員の妻にいつて別染の鈴木家の栝の紋のはいったねずみ色の羽二重の反物をいただきました。お葬式の時その着物を着まして出席させていただきました。

五十年前の昔の事ながら思い出すままこんな拙ない文章をかきつづりました。昭和十三年八月主人共に金子様のお勧めにて、(當時は東北チタンと言っていました)仙台チタン工場へ勤める事になりました。栄町時代はこれで終りましてこれからの二十六年仙台にすごし次は伊予工場で十八年本当に長い年月鈴木にお世話になりました。主人などもっと前の関東大震災から鈴木にお世話になっております。本当に有難う御座居ました。

私ももう八十にそろそろ手のとどく年になりました。金子様の思出もかきたいと思っております。平成五年正月これにて筆をおきます。

## 辰巳会便り

### 助野 敦子

前略

助野文字(九十四才)七月二十六日天寿を全ういたしました。長き厚誼感謝申し上げます。

### 柳田 祥三

寒中お見舞い申し上げます。父・義一への新年のご挨拶状を毎年いただきながら、世話するもの不精でここ数年失礼いたしております。父は現在、甲山の麓にあるアガベ山病院にて静養いたしております。その病院の手厚い看護のおかげで、数年前の元気を取り戻し、頭もしっかりとして、訪ねる度にその食欲の旺盛なことに驚いています。父の希望で嗜好品を与え過ぎの時があり、病院か

らお叱りをいただくこともある程です。看護される方の中に、スイスカラの若人がいるためでしょうか、入れ歯なしの状態ですが、会話に英単語が出ることもあり、看護される方から微笑みが出る程です。右は父が自宅で過ごしたこの正月、ブラジルからの若い二人の親戚を交えた時のスナックです。なお、病院では、偶然にも小生の関西学院中・高等部の友人である川村卓一君の手厚い看護を受けていたことを知り、その大いなる幸いに家族一同深く感謝している次第です。

皆様のご多幸を祈りつつ、父・義一へのご厚誼に深く感謝申し上げます。いつもお世話になり、有難うございます。

### 竹脇 元子

秋めいて参りました。御辰巳会様におかれましては

益々御発展にておめでとう存じます。

平素「御誌たつみ」を拝読させていただいておりました、竹内美代が去る十月二十三日急性心不全で他界いたしました。

生前数々御心配を賜りましたこと有難く厚く御礼を申し上げます。右、お知らせと共によりしくお願い申し上げます。なお故人は亡竹内虎雄の妻で竹内美代、住所は長岡京市緑が丘六一一六でした。

### 岡田 静子

朝夕は冷え冷えとして紅葉美しいころとなりました。「たつみ」

五十六号十月二十九日拝受いたしました。表紙金子貞子様の秋海棠のやさしい絵をしみじみと拝見いたしました。

平成四年度辰巳会全国大会の御一同様のお元気な御様子まことに御目出度く存じ上げます。寒さに

向かいますので皆様ますますお元気にお過ごし遊ばされます様念願いたします。先はお受け御礼まで  
かしこ  
十月三十日

### 越智 栄

日頃御無沙汰に打過ぎて居ります。

この度又「たつみ」第五十六号を御送付頂きましたことには有難く御受致しました。有難く厚く御礼申し上げます。

本年も早残り少なくなりました。何卒、これからの年月もお健やかに御繁栄お祈り上げます。  
かしこ  
十月二十九日

### 小林 俊夫

秋も深くなりました。本日「たつみ」五十六号拝受致しました。

